

千葉歴史の散歩道

加曽利貝塚の今とこれから。



千葉県教育庁教育振興部文化財課文化財主事 たけだ武田 よしまさ芳雅

千葉県の縄文時代遺跡と聞いて、千葉市の加曽利貝塚を思い起こされる方も多いただろう。縄文時代中期から後期（およそ5000年前から3000年前）を中心に2000年以上にわたる生活の痕跡を残す遺跡である。直径約140mで環状に広がる北貝塚と、長径約190mで馬蹄（馬のひづめ）形を呈する南貝塚が連なり、「8」の字を形づくる貝塚で、全国でも最大級の規模を有している。平成29年には国の特別史跡に指定された。現在、史跡としての魅力向上を目指している加曽利貝塚の今後について紹介したい。

千葉都市モノレールの桜木駅で下車し、千城台の方面へ進むと、坂月川の流れる大きな浸食谷が行く手に見えて来る。その手前を谷の下流側に折れた先、住宅街の中に大きなシイやクヌギ、コナラなどが繁る森が目に入る。この場所が、加曽利貝塚縄文遺跡公園である。公園の南側に進むと、先ほどの坂月川に注ぐ桜木川によって形作られた小さな谷がある。この縄文時代の貝塚と集落が、こうした谷に囲まれた台地の端に立地していることを見ることが出来る。

さて、公園内に入ると、時期によっては所々で工事が進められている様子が見える。昭和30年代に市民主導の保存運動によって開発から守られ、その後、発掘調査によって明らかになった実物を現地で見学できるよう貝層の断面観察施設などが整備された園内では現在、公園の整備などを行っている。案内板の設置

や利便性を考えた園路の再整備は今年度中を目途に、休憩施設などの設置を来年度中に行う予定である。また、出土した資料などを展示している博物館は、坂月川の対岸へ移転することが決まり、最新の調査研究の成果も学べる場所として、新たに建設する計画が進められている。

南貝塚の一角に、低いフェンスで囲われたエリアがある。現在、加曽利貝塚の構造や形成過程を明らかにするため、平成29年から実施している発掘調査の現場である。これまでに実施した調査では、縄文時代晩期の大型竪穴建物をはじめ、多数の土器、精緻なつくりの土製耳飾といった装身具や、石棒^{せきぼう}と呼ばれる祭祀遺物など多くの新たな発見もあった。今年度の調査期間は終了しているが、調査中は毎日、専門の担当者によるその日の発掘成果の解説を行っている。

気軽に外出することが難しい日々が続いているが、折を見て、新たな加曽利貝塚の姿をご覧になっていただきたい。



加曽利貝塚整備完成予想図
(千葉市教育委員会 提供)

千葉教育 桜 (No. 667) 令和3年3月18日発行

編集・発行 千葉県総合教育センター（代表）櫻井 比呂樹
〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13 TEL 043-276-1204
URL <http://www.ice.or.jp/nc/>
印刷所 千葉市療育センター いずみの家
〒261-0003 千葉市美浜区高浜4-8-3 TEL 043-216-2465